



<ひとこと>おでん・ラーメン…あったかいものがおいしく感じる季節になりました!

第4回柏市の防災計画をつくる会

今回は、「柏市の防災計画をつくる会」の委員から出された意見をどのような形で生かしていくかについての話し合いでした。意見の集約表が作成されていますが、A3の8枚(16ページ)になるものです。

項目としては、

- 自助共助
- 救急体制の見直し
- 災害時要援護者
- 公共施設・ライフライン
- 地域組織の役割
- 情報収集・伝達
- 広域応援・受援体制
- 避難所
- 物資配備体制
- 帰宅困難者

それぞれの項目で、気づき、提案、現行計画との関係(記載ページ・記載内容・評価)、方向性案(地域防災計画・活動指針・マニュアル・啓発媒体・説明講習・検討)

というふうに分類されています。委員の意見は現行計画との関係では未記載の内容もかなりあり、3月11日における現地の経験の声や意見を踏まえたことで具体的状況をできる限り想定しようとしていることが表れています。

現実的で実効力のある計画作りが望まれるところですので、市民の視点が生かされていくことは必須なのだと思います。

今後は、一つのまとまりができた段階で、個別に意見を述べることで、10月末から11月中旬までに全体会を持つ予定となっています。

声をあげられる市民ばかりではありません。障害をもつ要援護者の中で、どこにも所属していない障害当事者は、周囲の助けを得られないのだろうか、不安を持っていても声をあげられていないのではないだろうかというように感じます。東京のどこかの区で、区が把握している障害者全員に災害時に必要な支援などについてアンケートを行ったというニュースを聞きました。柏市においても必要なのではないかと感じています。



かしわ障害者むすぶ会

「一人ひとりの目線から、防災対策について考える
～障害福祉課との懇談会に参加して。その2～」

9月5日、かしわ障害者むすぶ会(以下、むすぶ会)と障害福祉課との懇談会がありました。7月に続き、防災についてたくさんの意見交換がなされました。

障害福祉課からは、服薬・避難所についての説明がありました。命に関わる薬剤は、市立柏病院にてストックされていますが、加えて薬卸業者の方と協定を進め、優先的に薬を確保できるようにしていくこと。障害児・者の二次避難先として、現在の市内施設2カ所に加え、新たに2カ所(計4カ所)に申し入れをしているとのことでした。

むすぶ会会員(当事者・家族・事業者など)からは以下のような意見がありました。

- ・ 災害時は、一時避難所として場所を提供することはできる。ただ、事業所のお金で、常時備蓄品を確保することは難しいので、補助金を申請することは出来ないか?
- ・ 避難先について。柏特別支援学校だけでなく、近隣市の学校との連携を希望する。
- ・ 非常食(おにぎり・パン)が食べられない人への配慮も検討していただきたい。
- ・ 環境の変化に弱かったり、危険への対応が鈍かったりするので、配慮してもらえぬ避難所が欲しい。

*懇談会は今後も開催予定です。柏市がやれること、むすぶ会・個々の会員で取り組めることを考えていければと思います。

自殺対策フォーラム 2012年9月9日(日)

～感じてほしい命のおもみ

知ってほしい柏の現状～

アミュゼ柏のクリスタルホールで開催されたこのフォーラムは、自殺予防とストレートに訴えたもので、会場は人で埋め尽くされたとは残念ながら言えませんが、確実にこのテーマに関心を持っている市民が参加したと実感のできるものとなりました。

第1部の基調講演に続いて、第2部のパネルディスカッションでは、最初に柏市福祉総務次長から柏市における自殺者の現状と取り組んでいること、柏医師会、精神科病院、東葛飾地区生と死を考える会、千葉命の電話、日本産業カウンセラー協会、そしてあいネットの6名からそれぞれ所属の説明と現状を話すことから始まりました。会場からの質問・意見では、

- ・ (相談窓口の) そもそも曜日や時間が限られていて、仕事を持っている人には相談しづらい
- ・ 若い人は既存の相談に行くよりも同じ悩みを持つ人と話したいと思っており、自主的な場に何らかの助成などがあるとよい
- ・ 自殺未遂者は何らかの思いとどまった理由があるはずなので、そういう人の体験からどんなことが必要か学ぶとよい
- ・ 周囲で気づいているが何もできない
- ・ 学校教育が重要ではないか
- ・ 具体的にわからないがツイッターなどの活用も検討できるとよいなど、活発な意見が出されました。

今回のフォーラムでは、市民から見てどんなこと・ものが、自殺予防対策として必要・有効かを率直に聞きたいということがありましたので、その意味では来場された市民の積極的参加の手ごたえがあったと思います。来年度には市民向けのゲートキーパー研修も開催予定です。自殺予防に対する市民の関心がさらに高まることを期待したいと思います。

かしわ ファミリー・サポート・センター



今回は柏市社会福祉協議会いきいきプラザ内にあるかしわファミリー・サポートセンターに取材に行きました。お忙しい中リーダーを始め、アドバイザーのみなさんが対応してくださいました。

どんな方が利用できますか？

ファミリー・サポート・センターは地域で支えあう子育てを、(育児の援助を受けたい) 利用会員と (育児の援助を行いたい) 協力会員で構成し、援助活動を行っています。依頼を受けてくれる協力会員が見つかったら、アドバイザーを交え3者で事前打ち合わせのうえ、支援の開始となります。利用会員は市内在住・在勤で生後6ヶ月以上小学校6年生までのお子さんをお持ちの方。協力会員は、市内在住で心身ともに健康な方で基礎研修を受けた後、活動していただきます。資格や経験は問いません。子育ての終わった方やご夫婦会員の方もいます。利用時間は、6時から22時までで土日祝日も利用できます。

利用料金は？

月～金の7時～20時は1時間あたり700円で、それ以外の時間と土・日・祝日・年末年始は800円です。1回の援助活動につき、最低1時間分の利用額とし、1時間を越えると1.5時間分の利用額と0.5時間単位で額が増えていきます。兄弟預かりは2人目から半額です。

アドバイザーとして心がけていることは？

利用会員から求められていることにズレが生じないようにすること、利用会員の気持ちを受け止めながらも、お子さんにとってどのような援助が一番良いのかを第一に考えること、協力会員が楽しいと感じられるように、無理のない形で援助活動を依頼すること、そして、利用会員が後々協力会員になっていただければいいな…と思っています。

最後に一言お願いします。

地域住民参加の子育て支援を通して、引越しや、中学校入学で利用関係の無くなった協力会員に、利用会員のお子さんが制服姿を見せに来たり、年賀状のやり取りがあることもあります。協力会員もお子さんからたくさんのパワーをもらっています。

現在、利用会員に対し協力会員が十分でない地区もあります。専門性は求めていないので、ボランティアに興味のある方・子どもが好きな方・自分の子どもは仕事であまりみてあげられなかった定年退職後のお父様またはご夫婦の方。協力会員入会説明及び基礎研修会を受講後、活躍していただけたらと思っています。よろしくお願いいたします。

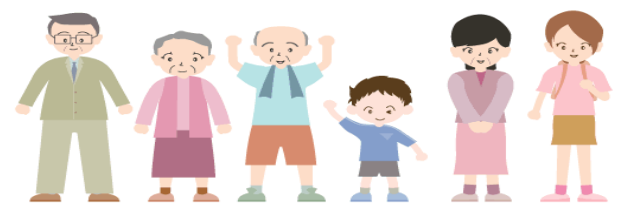
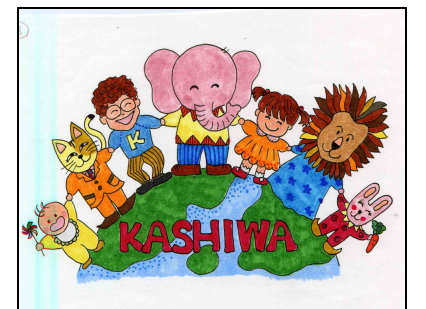


～お問い合わせ先～

<住所>
柏市柏 5-11-8 柏市社会福祉協議会いきいきプラザ内

<TEL>
04(7162) 0330

<FAX>
04(7163) 9300



◇こちらのコーナーへ掲載希望の方は、あいネット(電話:04-7165-8707 FAX:04-7165-8709)まで◇

いんぷろめーしょん 障がい者向けの パソコン教室

パソコン教室に通いたくても障がい者向けの教室がない。パソコンでオリジナルの年賀状を作りたい。
そんな声にお応えするため、障がいのあるかたを対象とした、入門から初級レベルのパソコン教室を開催します。

・年賀状の作り方

対象者: 身体障がい者

日時: 10月30日(火曜日)

午後1時から2時間程度

場所: 富里近隣センター 会議室

会費: 千円(インク代・保険料を含む。付き添いの方がいる場合、付き添いの方の分は無料。印刷するための無地のはがきをご用意ください。

備考: ご自宅から出る際やトイレ介助について介助を要する方や、移動手段がない方は、まず、ご相談ください。

お問い合わせ

特定非営利活動法人

バッテリー 担当 といだ

TEL&FAX

04-7170-4534

講師もやはり身体障がい者です！
口でくわえた割りばしでパソコンを打っています。

